



「ふるさと研究活動」は、子どもからおとなまで、幅広い世代の市民のみなさんの参加により、ふるさと所沢の自然・歴史・芸術・文化・産業など、様々な分野の資料や情報を集め、調査・研究を深めてゆく活動です。「所沢のことをなんでも知りたい！」方のご参加をお待ちしております。

8月26日

星と所沢のものがたり 体験学習会

七夕に星を見よう!

「伝統的七夕の日」(前号参照)である8月26日夜、7月の日食観察会につづき、市内の望遠鏡メーカー株式会社ビクセンのご協力をいただいて、学習会「七夕に星を見よう!」が開催されました。

まだまだ明るさが残る18時、学習会は小野智子さんのお話で始まりました。伝統的な七夕や、星や望遠鏡についてのお話を聞く間、生涯学習推進センターのグラウンドでは着々と天体望遠鏡の準備が進みます。七夕ゆかりの星々——こと座のベガ(おりひめ)、わし座のアルタイル(ひこぼし)、「夏の大三角形」のひとつ、はくちょう座のデネブなど、観測に向け気持ちは否が応にも高まったのですが…。何にたたられたか7月につづきこの日もあいにくの重い空。参加者の皆さんも、企画展示室で100年前の天体望遠鏡を見学しつつ晴れるのを待ち望みましたが、とうとう重い雲が晴れることはありませんでした。とても残念でした。

ということで当日のお話からプチクイズです。

この世で一番速い「光」。1秒間に地球を7周半回ることができます。この光でも1年かかる距離が「1光年」ですが、おりひめ(ベガ)とひこぼし(アルタイル)の間は、一体どの位離れているのでしょうか? (こたえは一番下に)

- ① 1万6千光年 ② 16光年 ③ 1.6光年



9月にご覧いただける展示など

場所	内容
企画展示室	「星と所沢のものがたり」 9月6日(日)まで
常設展示室	所沢の歴史・昔の暮らし・自然など
メモリアルルーム	並木東小学校の「記憶」
南棟3階階段脇掲示板 ミニ写真展	新所沢地区の移り変わり part1 東口編 9月12日(土)まで 新所沢地区の移り変わり part2 西口編 9月13日(日)から
3階中央棟廊下壁 今月の航空写真	滝の城跡周辺(平成9年～昭和57年) 10月2日(金)まで

上のクイズのこたえ: ②の16光年。仮に光の速さで織姫と彦星が移動したとしても、1年に1度どころか片道16年、往復で32年かかってしまうのだとか。それでも星の世界では短い距離のうちだそうです。

所沢市生涯学習推進センター ふるさと研究担当

Tel:04-2991-0308 Fax:04-2991-0309 Mail:b29910308@city.tokorozawa.saitama.jp

常設展示室のご案内

その1 展示概要と特徴的な民具展示

◆3階の常設展示室には所沢の自然、歴史、文化の特徴がわかるような展示がされています。その主なものをあげておきましょう。

- 所沢市の歴史年表 … 原始・古代から現代までの主なできごとを表にしています
- ダイジェスト！所沢の歴史 … 各時代を代表する事柄を写真や図表で展示解説しています
- 復元模型「滝の城」 … 展示室の開設とともに寄贈された滝の城跡保存会製作の復元模型です
- 所沢に生息する鳥・昆虫 … 市内で観られる野鳥や昆虫を写真で紹介しています
- 所沢の民具 … 畑作地帯で織物や茶業が盛んであった所沢の特徴的な民具を展示しています

◆常設展示のなかから民具コーナーの展示の特色をご紹介します。（写真は展示の一部です）

民具コーナーは、「民具で語る所沢の仕事と暮らし」と題して、水に乏しかった武蔵野台地で営まれた人びとの仕事や暮らしぶりが理解できるように、数多く残る民具資料のなかから特徴的なものを展示しています。所沢飛白（かすり）と機織り用具、安松ざるで知られる竹製品、狭山茶を生産した茶業用具、農家の普段着であった野良着、麦作りに欠かせない鍬や鎌、三富新田の農業や雨乞いなどについても写真や解説パネルで紹介しています。昔の人びとの知恵や工夫が満載の民具ばかりです。



関東大震災の爪あと



ふるさと研究市民トピック vol.3

災害はいつ来るかわかりません。この8月にも静岡県沖で震度6弱の地震が起これ、死者1名のニュースや崩落した高速道路の映像に、改めて防災について考えた方も少なくないのではないのでしょうか。

9月1日は防災の日です。大正12年に起こった関東大震災は、死傷者20万人に達する大きな被害をもたらし、入間郡全体で山口村の1名を含む3名が死亡しました。建物の損害も大きく、流言が広まり、東京との交通も遮断され、影響は大変なものでありました。

この地震で、吾妻地区の荒幡の富士は山肌に亀裂ができ、氏子一同がすぐ修復にあたったにもかかわらず、翌13年1月の再びの強震でまた崩れてしまいました。最終的に復興が

なったのは、13年3月のことでした。

また、北野天神社の西参道にある節のない円柱状の竿を持つ燈籠は、かつて北中にあった小手指神社という神社の鳥居でした。この神社は大正元年に北野天神社へ一緒に祀られることになり、鳥居も同時に移転しました。そして大正12年の震災によって倒壊してしまったのです。それを惜しみ、昭和34年に部材を使って建てられたのがこの燈籠です。竿の部分は鳥居の石材がそのまま用いられ、「明治十三年辰十一」「北中村氏子中」と刻みます。「十一」の下には「月」あるいは「月吉日」と彫られていたのでしょうか。

地震の影響を残す燈籠は、柳瀬地区坂之下の東光寺金毘羅堂にも残っています。